

「日々の理科」(第 3135 号) 2023, -3, -7

「月と火星・金星と木星の接近(3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

「月と惑星の同時撮影」と比較すると、惑星同士の(見た目の)接近の撮影は、ずっと容易である。デジタル一眼レフがあれば最も良い写真が撮れるが、今のコンデジ(コンパクト・デジタルカメラ)は性能が良く、天体写真もある程度のレベルで撮影ができる。



私の持っているコンデジは、シャッタースピード、絞り、フォーカス(ピント)、ISO(感度)、ズームのすべてをマニュアル(手動)で設定できる。ポケットに入る大きさだが、機能的にはデジタル一眼レフ並みの性能である。上の写真は何も設定せず「オール・オート」のモードで撮影したものだ。



次に、イチョウ並木の換気口の台座にカメラを置いて、かなり望遠にして撮ってみた。三脚を使わなくても、この程度の写真は撮れるのだ。



日没直後の西の空の恒星や惑星は、背景の空の色が美しい。いろいろとカメラの設定を変えると、より美しい空の色になることもわかった。



私が目指している天体写真は、「見た目に近い情景的な写真」である。上の写真は、実際に見た風景と2つの惑星に一番近いと思う。



左上が木星、右下が金星だ。金星のほうが実サイズはずっと小さいのだが、木星に比べると太陽にも地球にもずっと近いので、抜群に明るいのである。